教育研究業績書

2025年05月07日

所属： 健康生命薬科学科　　資格： 准教授　　氏名： 仁木　洋子

研究分野	研究内容のキーワード
化粧品科学，皮膚科学，色素細胞学	化粧品，皮膚，色素細胞、メラニン色素，光老化，毛髪
学位	最終学歴
博士（医学）	信州大学大学院工学系研究科

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
1 教育方法の実践例		
1.創薬体験学習Ⅱ細胞培養手技の動画作成	2021年11月	創薬体験学習Ⅱにおいて、細胞培養の基本的手技の解説動画を作成し、学生の理解を促した。実習前に視聴してもらうことで、スムーズな実習実施と学生の学修効果の向上に寄与した。
2.基礎生物学演習の実施	2020年10月～2020年12月	2020年度前期講義の「基礎生物学」の講義終了時アンケートから学生が「難しい」と感じた項目について、３回の演習講義（オンライン）を実施した。
3.卒業研究Ⅰ・Ⅱの指導	2020年4月～現在	研究室に配属された学部生に対して卒業研究および論文作成の指導を行った。自ら考え行動できるようになることを意識して指導した。適時、進捗状況の報告会を研究室で実施した。積極的な学会発表を促し、発信力の向上に努めた。卒業研究発表会の前には発表指導を行った。
4.双方向型の授業実施	2020年4月～現在	基礎生物学において、授業で学習したことの理解を深めるために、確認テストを宿題としてオンラインで実施し、添削、返却をすることで双方向型授業を実施した。また、質問には次回講義冒頭で説明を行い、クラス全体での共有を行った。（健康生命薬科学科1年生対象）
5.動画を活用した講義（基礎生物学）	2020年4月～現在	健康生命薬科学科1年生対象「基礎生物学」において、教科書付属の動画を活用し、テキストや口頭説明だけでは理解し難い細胞内の分子挙動や細胞の活動について補足説明を行い、学修者の理解を深めた。（健康生命薬科学科1年生対象）
2 作成した教科書、教材		
1.実習テキスト（実験基礎）	2023年9月～現在	生物学実験における核酸取り扱いの基本である制限酵素によるDNAの切断とアガロース電気泳動による分離と検出について知識を深め、実験技術とレポート作成能力の修得を目的として、実習で使用するテキストを作成した。（健康生命薬科学科１年生対象）
2.実習テキスト（生化学実験Ⅰ、2025年度科目名が生物学・生化学実験に変更）	2023年4月～現在	生化学・生物学実習の基礎となるマイクロピペットでの微量液体の正確な取り扱い、タンパク質の定量と分子量による分離の知識を深め、実験技術とレポート作成能力の修得を目的として、実習で使用するテキストを作成した。（健康生命薬科学科２年生対象）
3.実習テキスト（生体成分と免疫を調べる）	2023年4月	生物学実習の基礎となるマイクロピペットでの微量液体の正確な取り扱い、タンパク質の定量と分子量による分離の知識を深め、実験技術とレポート作成能力の修得を目的として、実習で使用するテキストを作成した。（薬学科２年生対象）
4.応用化粧品学における小テスト	2021年4月～現在	授業回数分の小テストを作成した。（健康生命薬科学科3年生対象）
5.皮膚科学における小テスト	2020年4月～現在	授業回数分の小テストを作成した。（健康生命薬科学科2年生対象）
6.基礎生物学における小テスト	2020年4月～現在	授業回数分の小テストを作成した。（健康生命薬科学科1年生対象）
7.実践化粧品学における小テスト	2020年4月～2024年まで	授業回数分の小テストを作成した。（健康生命薬科学科3年生対象）
8.実習テキスト（化粧品学実験）	2020年4月	各種剤型のクレンジングによるメイク落とし効果の評価、界面活性剤の細胞毒性評価、皮膚・毛髪の酸化ダ

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
2 作成した教科書、教材		
9.テキスト（基礎生物学）	2000年4月～現在	メージの染色と観察、化粧水による皮膚角層水分量変化評価について、実験技術とレポート作成能力の修得を目的として、実習で使用するテキストを作成した。（健康生命薬科学科２年生対象） 生物学の基本的な内容について高等学校での生物未履修者にも理解できるように、また履修者については高校生物と大学生物の繋がりを理解できるように講義で使用するテキストを作成した。（健康生命薬科学科１年生対象）
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.アカデミックセミナー（中国広州）での講師	2019年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師としてリン脂質の化粧品応用について講演した。
2.アカデミックセミナー（中国上海）での講師	2018年10月21日	日本の化粧品原料メーカー合同セミナーにて講師として、両親媒性エステル油の表皮浸透促進技術について講演した。
3.研究員教育	2006年4月～2007年5月	和研薬株式会社にて研究記録管理の体制構築を行い、教育係として、約10名の研究員の教育を行った。
4 その他		
1.担任クラス指導	2025年4月～現在	健康生命薬科学科のクラス担任として学生指導を行っている（2027年度までの予定）
2.高校生の研究室訪問および実験体験開催	2025年2月15日	岡山県就実高校の生徒6名に対して、研究室にて実験授業を行った。 タイトル「美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
3.科学交流会	2024年7月22日	兵庫県下の高校生６名に対して、実験授業を行った。 「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
4.武庫川女子大学付属高等学校「科学探求Ⅱ」	2024年5月20日	武庫川女子大学付属高等学校「科学探求Ⅱ」にて、高校生も参加できる実験を交えながら授業を実施した。 タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
5.高校向け出張授業	2024年5月17日、6月28日	仁川学院高等学校「カルティタイム（探求の時間)」において３年生11名に、植物由来成分の化粧品への応用、および香水の科学について実験を伴う授業を行った。
6.高校出前授業	2023年12月16日	石川県立星稜高校にて、高校生も参加できる実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
7.中学校出前授業	2023年11月24日	西宮市立学文中学校１年生（約40名）に向けてキャリア教育に関する出前授業を行った。タイトル「「化粧品にかかわる仕事を知ろう！」
8.仁川学院中学校　探求授業	2023年11月4日、11日	仁川学院中学校3年生14名に実験授業を行った。 「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
9.科学交流会	2023年7月22日	兵庫県下の高校生5名に対して、実験授業を行った。 「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
10.武庫川女子大学付属高等学校の連携授業	2023年6月5日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校２年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
11.高校向け出張授業	2023年5月12日、6月9日	仁川学院高等学校「カルティタイム（探求の時間」において３年生11名に、アロマテラピー、化粧品の科学についての実験授業を行った。
12.高校生向け実験授業	2022年12月26日	追手門高校１年生15人に対して、実験授業を行った。 タイトル「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
13.武庫川女子大学付属高等学校の連携授業	2022年10月31日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校生も参加できる実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
14.中学校出前授業	2022年10月24日	西宮市立学文中学校１年生２クラス（約70名）に向けてキャリア教育に関する出前授業を行った。タイトル「「化粧品にかかわる仕事を知ろう！」

教育上の能力に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
15.科学交流研修会	2022年7月22日	兵庫県下の高校生８名に対して、実験授業を行った。 「市販美白化粧品のメラニン生成抑制効果」
16.神戸松蔭女子学院大学での特別講義	2022年7月19日	ファッション・ハウジングデザイン学科1年生向け「身体論（美容）」、及び３年生向け「化粧品論」において特別講義を行った。
17.中学校出前授業	2022年3月1日	西宮市立浜脇中学校１年生２クラス（約70名）に向けてキャリア教育に関する出前授業を行った。タイトル「「化粧品にかかわる仕事を知ろう！」その様子が神戸新聞阪神版に掲載された。
18.武庫川女子大学付属高等学校の連携授業	2021年11月22日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校２年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
19.武庫川女子大学付属高等学校の連携授業	2021年2月15日	スーパーサイエンスハイスクール（SSH）高大連携授業にて、高校２年生約40名に対して実験を交えながら授業を実施した。タイトル：「皮膚の老化はなぜ起こる？」
20.プレ講義	2020年12月～現在	武庫川女子大学薬学部・健康生命薬科学科の入学試験合格者（高校3年生）を対象に、高校から大学への導入講義を年2回行った。 2020、2021年度はオンライン開催
21.岡山理科大学での特別講義	2017年12月14日	生命科学部生物科学科３年生向け「化粧品概論」において、「化粧品の安全性保障」について、新聞、ニュース記事なども用いたわかりやすい資料を作成し、基礎から企業での実務内容について講義を行った。
22.岡山理科大学での特別講義	2016年11月26日	生命科学部生物科学科３年生向け「化粧品概論」において、「メラニン色素の科学」、「美白剤開発」について、新聞、ニュース記事なども用いたわかりやすい資料を作成し、基礎から企業での実務内容について講義を行った。
23.岡山理科大学での特別講義	2012年6月16日	生命科学部生物科学科３年生向け「化粧品概論」において、「メラニン色素の科学」、「美白剤開発」について、新聞、ニュース記事なども用いたわかりやすい資料を作成し、基礎から企業での実務内容について講義を行った。

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
1 資格、免許		
2 特許等		
1.化粧料	2023年12月12日	【発明者】岩崎和弘、仁木洋子、橋本明宏、勝間田祐貴、大橋幸浩、和田正、原健次郎、松山豪彦 【公開番号】特開2024-019506
2.化粧料	2022年3月29日	【発明者】岩崎和弘、仁木洋子、橋本明宏、勝間田祐貴、大橋幸浩、和田正、石田典久、原健次郎、松山豪彦 【公開番号】特開2022-79579
3.ディフェンシン発現促進剤	2020年8月10日	【発明者】遠藤香凛、仁木洋子、大橋幸浩、 【公開番号】特開2021-116267【特許番号】特許第7475873号
4.微細藻類由来の新規な抽出物	2020年8月4日	【発明者】仁木洋子、上田剛士、小野内裕美、大橋幸浩、佐藤剛毅、大木利哉、小出昌弘、阿部覚 【公開番号】特開2022-029111
5.ホスファチジルイノシトール含有生理活性組成物	2020年7月9日	【発明者】仁木洋子、遠藤香凛、小寺啓貴、大橋幸浩 【公開番号】特開2020-105076【特許番号】特許第7178257号

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
2 特許等		
6.皮膚常在菌バランス改善剤	2020年3月31日	【発明者】福永悟史、福田真弓、小野内裕美、仁木洋子、鍵谷悦雄、大橋幸浩 【公開番号】特開2021-161034【特許番号】特許第7551323号
7.ホスファチジルイノシトールを有効成分とする生理活性組成物	2020年3月9日	【発明者】仁木洋子、遠藤香凛、小寺啓貴、上田剛士、大橋幸浩 【公開番号】特開2020-189826
8.刺激緩和剤	2018年8月28日	【発明者】小山美穂、仁木洋子、勝間田祐貴、清川真吾 【公開番号】特開2020-033278
9.サーチュイン１遺伝子活性化剤	2018年6月20日	【発明者】遠藤香凛、仁木洋子、大橋幸浩 【公開番号】特開2019-218296【特許番号】特許第7101059号
10.ﾎｽﾌｧﾁｼﾞﾙｲﾉｼﾄｰﾙ含有複合体	2018年4月25日	【発明者】小寺啓貴、仁木洋子、小山美穂、橋本明宏、大橋幸浩 【公開番号】特開2019-189556【特許番号】特許第7093670号
11.ヒアルロン酸産生促進剤	2017年12月7日	【発明者】仁木洋子、大橋幸浩 【公開番号】特開2019-099530
12.ヒアルロン酸産生促進剤およびこれを配合した化粧料	2017年6月27日	【発明者】仁木洋子、橋本明宏、勝間田祐貴、大橋幸浩、原健次郎、松山豪彦 【公開番号】特開2019-006725【特許番号】特許第6912772号
13.化粧料	2017年5月11日	【発明者】岩崎和弘、仁木洋子、橋本明宏、勝間田祐貴、大橋幸浩、和田正、石田典久、原健次郎、松山豪彦 【公開番号】特開2018-188403【特許番号】特許第7141628号
14.パルミトイル化によるチロシナーゼの修飾によるメラニン形成の調節	2012年12月20日	【発明者】ヤロッシュ，ダニエル ビー、デクレルク，リーヴ、仁木洋子、齋藤尚亮 【国際公開番号】 WO2014/099609 【優先権主張番号】US（米国）61/740,048
15.皮膚の美白用組成物	2010年1月5日	【発明者】仁木洋子、ヤロッシュ，ダニエル ビー、マツイ，マリー エス、吉田雅紀、市橋正光、安藤秀哉 【国際公開番号】 WO2011/085015【優先権主張番号】US(米国) 61/292,577
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
1.化粧品会社での依頼セミナー講師	2024年11月15日	化粧品会社からの依頼で社員および顧客向けスキルアップセミナーにおいて講演を行った。タイトル：「化粧品成分の皮膚生理作用について」
2.株式会社ミロワール主催セミナーの講師	2024年2月～現在	エステサロンを経営する株式会社ミロワール主催のオンラインセミナーシリーズの講師を合計４回務めた（2025年4月現在）。今後も継続開催を予定している。 タイトル：「研究者に聞く！今さら聞けない美肌の基本」
3.市民対象講座インターカレッジ西宮の講師	2022年6月15日2022年6月22日	西宮市主催の市民対象講座インターカレッジ西宮において、２回の「化粧品学レクチャー」を行った。受講生約50名。
4.日本骨格メイク協会主催セミナーでの講演	2021年1月16日	オンラインでのセミナー講演を行った。 タイトル「美しい肌色のための皮膚科学」
5.技術教育出版主催セミナー での講演	2019年10月24日	アンチエイジング・抗老化化粧品のオーバービューとこれからの展開、－皮膚科学・商品トレンドをベースに- トラネキサム酸のアンチエイジング効果について講演した。
6.業務特別表彰受賞（日本精化株式会社）	2019年2月12日	国内外学術発表による製品ブランドの向上
7.宇都宮大学との共同研究	2018年10月2019年9月	表皮モデルにおけるセラミド産生の解析
8.第6回加計学園コスメティックサイエンスシンポジウ	2018年10月	両親媒性エステルによる水溶性化粧品有効成分の表皮

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
3 実務の経験を有する者についての特記事項		
ム		浸透促進効果について講演を行った。
9.東京工科大学との共同研究	2018年4月2020年3月	トラネキサム酸による皮膚のアンチエイジング効果について
10.技術教育出版主催セミナー	2018年1月26日	美白化粧品研究開発のトレンドと最新技術セミナーにて、メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとした美白コンセプトについて講演した。
11.化粧品原料展示会CITE JAPAN2017での技術発表	2017年6月1日	両親媒性エステル、リポソームなどの浸透促進素材に関する技術発表を約100名の聴講者に実施。
12.インターンシップの主導（日本精化株式会社）	2017年-2018年	3回のインターンシップを主導し、のべ4大学15名の学生に参加いただき、1名の採用に繋げた。
13.同志社大学セミナーでの講演	2009年1月	メラニン色素生成量及び質へのtyrp-2遺伝子変異の影響について講演を行った。
14.地域新生コンソーシアム研究開発事業「オミックス解析技術による新規代謝動態解析装置の開発」	2006年-2007年	京都大学を中心とする産官学連携研究に参加。無細胞コムギタンパク質システムによる酵素合成とプロテオミクス解析を担当した。
15.化粧品原料受託試験事業の立ち上げと運営（株式会社バイオリサーチ）	2003年-2005年	美白剤探索、有効性評価等の化粧品原料受託評価業を新規に立上げ、年間1200万円の売上を達成。技術営業から試験実施、報告書作成などを担当した。
16.地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最適化デザインされたナノデバイスの開発」	2002年	京都大学が中心となる産官学連携研究、地域新生コンソーシアム研究開発事業「ガン中性子捕捉療法用に最適化デザインされたナノデバイスの開発」に登録研究員として参加。ホウ素中性子補足療法用デバイスの生体内動態の解析を行った。
4 その他		
1.学校教育センター委員	2025年4月～現在	健康生命薬科学科の中高（理科）教員免許取得希望学生の支援を行っている。
2.日本災害医療薬剤師学会でのハンドケアイベント開催	2025年2月8日	武庫川女子大学にて開催された日本災害医療薬剤師学会内の「阪神・淡路大震災30年防災シンポジウム」において、学生有志によるMUKOism化粧品を使用してのハンドケアを一般来場者約45名に行った。同時に、客員教授谷都美子先生の被災地での被災者向けハンドケア実践の報告を行った。
3.MUKOJO ミライ☆ラボ親子向け実験イベント	2024年8月6日	ららぽーと甲子園にて、親子向け実験イベント「「太陽の光で色が変わる不思議なスライム作り」を研究室の学生と企画、実施した。幼稚園児～小学生の親子64組が参加した。
4.学部広報委員	2024年4月～現在	キャンパスガイド、学科パンフレット編集、学部ホームページ編集などを行っている。
5.武庫女スマイルフェス2023	2024年2月18日	ららぽーと甲子園と武庫川女子大学の合同イベント「武庫女スマイルフェス」において、客員教授谷都美子先生のご指導の下、研究室学生有志による「薬学部生のハンドサロン」を開催した。武庫女オリジナル化粧品のMUKOismハンドクリームを使用したハンドケアサービスを約200名の一般来場者に実施した。
6.MUKOJO ミライ☆ラボ親子向け実験イベント	2023年8月8日	ららぽーと甲子園にて、親子向け実験イベント「太陽の光で色が変わる不思議なスライム作り」を研究室の学生と企画、実施した。幼稚園児～中学生の親子 54組が参加した。
7.病院・薬局実務実習近畿地区調整機構第114回指導薬剤師養成ワークショップ（神戸学院大学）	2022年9月3日～2022年9月4日	受講
8.MUKOJO ミライ☆ラボ親子向け実験イベント	2022年8月9日	ららぽーと甲子園にて、親子向け実験イベント「「太陽の光で色が変わる不思議なスライム作り」を研究室の学生と企画、実施した。幼稚園児～中学生の親子59組が参加した。
9.2022年度M-COSMIC市民講座運営	2022年6月25日2022年11月19日	5回のM-COSMIC市民公開講座の運営を行った。 6月25日　講師：客員教授南野美紀先生 7月23日　講師：客員教授神田不二宏先生 9月3日　講師：客員教授谷登美子先生 10月22日　講師：客員教授菅沼薫先生 11月19日　講師：客員教授南野美紀先生

職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
4 その他		
10.学部広報委員オープンキャンパス担当	2022年4月～現在	2024年度からは、有志学生による「薬学部生とのハンドサロン」を主導し、武庫女オリジナル化粧品MUKOismハンドクリームを用いたハンドケアをオープンキャンパス参加者に実施し、学生と高校生の交流を深める試みを続けている。
11.武庫女スマイルフェス2021	2021年2月15日2021年2月21日	ららぽーと甲子園と武庫川女子大学の合同イベントである「武庫女スマイルフェス」において、研究室配属生３年生３名によるアンケート調査「with コロナ生活と化粧品」の実施及びポスター展示発表の指導を行った。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
1 著書				
1.最新皮膚エイジングメカニズムと高機能性シワ改善化粧品の開発	共	2020年6月	シーエムシー出版	第23章「トラネキサム酸のアンチエイジング効果について」を執筆
2.最新・化粧品開発のための美容理論、処方/製剤、機能評価の実際	共	2018年7月	技術教育出版社	第9章「メラニン生成酵素チロシナーゼをターゲットとする美白コンセプト」を執筆
2 学位論文				
1.1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylpheny) propane(DP)は、二重の機構でメラニン生成を抑制する。	単	2011年10月	藤田保健衛生大学（医学部）	キキョウランから見出された、1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylpheny)propane(DP)は、抗酸化作用とチロシナーゼの分解促進によってメラニン生成を抑制する。
3 学術論文				
1.メラニン生成酵素チロシナーゼの翻訳後修飾によるメラニン生成調節作用メカニズム	単	2025年4月刊行予定	Cosmetic Science	メラニン生成酵素チロシナーゼの翻訳後修飾によるメラニン生成制御について、脂質修飾のパルミトイル化を中心に解説した。 仁木洋子 2025年４月号、68-75
2.Rosae Multiflorae Fructus Extracts Regulate the Differentiation and Vascular Endothelial Cell-mediated Proliferation of Epidermal Keratinocytes.(査読付)	共	2025年1月	Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry	エイジツエキスが正常ヒト表皮細胞、および３次元表皮皮膚モデルでの分化を促進し、バリア機能を高めることを示した。さらにエイジツエキスは、ヒト静脈内皮細胞の増殖と血管新生を促進し、表皮細胞の増殖と創傷治癒能力を高めた。これらの結果からエイジツエキスが内皮細胞を介した間接的な効果を通じて皮膚機能を向上する可能性を示した。 Asayama S., Igarashi T., Abe Y., Akiyama K., Iwasaki A., Kubo M., Ikeda A., Okamoto T., Yagi M., Niki Y., Ando H., Ichihashi M. Mizutani K (in press)
3.ウェルビーイング教育と地域医療教育から構成されるアロマテラピー教育プログラムの実践（査読付）	共	2024年2月	武庫川女子大学学校教育センター紀要	2022年度に薬学部低学年希望者を対象とし、筆者らが独自に構築したウェルビーイング教育と地域医療教育を組み合わせたアロマテラピー教育プログラムを実施した。その実施内容、所感、課題を報告した。 池端美和、藤井規代、仁木洋子、三浦健 （2024）第9号 71-82
4.S-Palmitoylation of Tyrosinase at Cysteine500 Regulates Melanogenesis.（査読付）	共	2023年1月	Journal of Investigative Dermatol	メラニン生成鍵酵素であるチロシナーゼは、翻訳後脂質修飾の1種であるパルミトイル化を受ける。パルミトイル化されたチロシナーゼは、優先的に分解されることを示し、チロシナーゼのパルミトイル化がメラニン生成制御の一因となる可能性を示した。 Niki Y, Adachi N, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Makino-Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Declercq L, Yarosh DB,

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
5.カミソリ剃毛の皮膚バリア機能に及ぼす影響（査読付）	共	2022年4月	日本香粧品学会誌	Mammone T, Nishigori C, Saito N, Ueyama T 2023 143(2):317-327. カミソリの性能評価を実施し、シェービングによるTEWLと角質層の水分量測定、および蛍光染色での角質層の勾配を評価した。その結果、カミソリによるシェービングは、繰り返しのテープストリッピングと比較して肌へのダメージは非常に軽微であることを示した。 萩原穂香、木部龍太、原和暢、小林甫、塩谷俊介、仁木洋子、平尾哲二 (2022), 46(4) 341-346
6.Tranexamic Acid Improves the Disrupted Formation of Collagen and Fibrillin-1 Fibers Produced by Fibroblasts Repetitively Irradiated with UVA（査読付）	共	2021年2月	Biological and Pharmaceutical Bulletin	紫外線A波を繰り返し照射した真皮線維芽細胞を光老化モデル細胞とし、トラネキサム酸は、PGE2合成を抑制し、真皮マトリクスであるコラーゲンやフィブリリン繊維の形成を改善する光老化防止剤として有効である可能性を示した。 Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H (2021); 2:122-125
7.The suppressive effects of phosphatidylinositol-rich liposomes on unknown influence of Blue Lights on deterioration of skin moisturizing function -Focus on oxidative damage of mitochondria-	共	2020年10月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2020	ブルーライト（BL）照射によって引き起こされるミトコンドリアの損傷が、皮膚の水分機能障害に関連する酸化ストレスの増加とカルボニル化タンパク質(CPs)の蓄積につながる可能性を示唆した。 また、リン脂質の１種である phosphatidylinositolが豊富なリポソームは、CPsの蓄積によって引き起こされる保湿機能障害を効果的に改善し、BL誘発ミトコンドリア損傷を減らすことができることを示した。 Niki Y, Endo K, Onouchi H, Iwasaki K, Kotera H, Ohashi Y, Masaki H 21-30 October, 2020, Proceeding
8.紫外線、ブルーライト、近赤外線照射による色素班形成の可能性とホスファチジルイノシトール高配合リポソームの抑制効果	共	2020年7月	フレグランスジャーナル	ブルーライト、近赤外線によって、表皮細胞のメラノソーム取込みが増加することを見出し、これらの波長の光が色素斑形成の要因となりえることを示した。またホスファチジルイノシトールによって、表皮細胞によるメラノソーム取込みが抑制されることを示した。 遠藤香凛、仁木洋子、小寺啓貴
9.Anti-Blue Light, Anti-Pollution, and Anti-Wrinkle Effects of PrimeLipi PI（査読付）	共	2020年4月	The K Beauty Science	生理活性脂質ホスファチジルイノシトールを高配合したリポソームによる、保湿、抗シワ、美白、抗酸化効果について細胞、ヒトレベルで示した。 Niki Y, Endo K, Kotera T, Iwasaki K, Ohashi Y (2020); 3
10.生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用と保湿効果	共	2020年1月	フレグランスジャーナル	生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームの保湿、抗シワ、ヒアルロン酸合成促進作用について培養細胞、およぎヒト試験で検討した。 仁木洋子、小寺啓貴、岩崎和弘、遠藤香凜
11.Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	ホスファチジルイノシトール高配合リポソームは、細胞内の抗酸化システムを活性化させ、色素斑形成を抑制する可能性を見出した。 Endo K, Niki Y, Tkotera K, Ohashi Y, Masaki H, 30, September, 1-2, October, 2019, Proceeding

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
light, Blue-light, or Near-infrared light				
12.Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2019	生理活性脂質ホスファチジルイノシトール含有リポソームのヒアルロン酸合成促進作用について、レチノイン受容体及びEGFR受容体の双方を介するメカニズムである可能性を示した。 Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 30, September, 1-2, October, 2019, Proceeding
13.サトウキビ由来イヌリン「Inulin-SC」の化粧品への応用	共	2019年6月	フレグランスジャーナル韓国	サトウキビ由来の多糖体であるイヌリンの化粧料としての特徴を示した。 岩崎和弘、勝間田祐貴、仁木洋子 (2019);6:122-125
14.両親媒性エステル油剤による表皮、毛髪への有効性成分の浸透促進及び有効成分の効果向上とそのメカニズム	共	2019年3月	フレグランスジャーナル	両新媒性エステルの表皮浸透促進剤に関する検討を行い、水溶性成分の表皮及び毛髪への浸透促進作用とそのメカニズムを解明した。 仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2019);3:58-62
15.浸透促進剤Neosolue-Aqulioによる表皮、毛髪への有効成分の浸透促進及び有効成分の効果向上そのメカニズム	共	2018年10月	フレグランスジャーナル韓国	両親媒性エステルCH-CAの水溶性成分の表皮浸透促進効果について示した。 仁木洋子、勝間田祐貴、山川智史、釋氏梨沙 (2018);10:86-91
16.Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2018	トラネキサム酸は真皮線維芽細胞のサーチュイン１遺伝子発現を向上させ、紫外線曝露によって低下したコラーゲン産生能、エラスチン関連遺伝子の発現を回復させる。 Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding
17.Efficacy and Mechanisms of Action of the Skin Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA) on the Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.	共	2018年9月	The International Federation of Societies of Cosmetic Chemists, IFSCC2018	両親媒性エステルの水溶性成分の表皮浸透促進効果について検討し、水溶性成分トラネキサム酸の表皮浸透性と美白効果が向上することを示した。 Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi Y, Masaki H, 18-21, September, 2018, Proceeding
18.ナノサイズベシクルを容易に調製できるバイオサーファクタントプレミックス新素材	共	2017年3月	フレグランスジャーナル韓国	バイオサーファクタントについて、化粧料としての応用を示し、皮膚浸透性について解析を行った。 福永悟史、橋本明宏、勝間田祐貴、仁木洋子 (2017);3:76-79
19.Omeprazole, a gastric proton pump inhibitor, inhibits melanogenesis by blocking ATP7A	共	2015年3月	Journal of Investigative Dermatol	プロトンポンプ阻害剤はATP7の細胞内輸送を阻害し、メラニン合成を抑制する。 Matsui MS, Petris MJ, Niki Y, Karaman-Jurukovska N, Muizzuddin N, Ichihashi M, Yarosh DB. (2015);135(3):834-841

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
trafficking（査読付）				
20.Heparin inhibits melanosome uptake and inflammatory response coupled with phagocytosis through blocking PI3k/akt MEK/ERK signaling pathways in human epidermal keratinocytes. （査読付）	共	2014年6月	Pigment Cell Melanoma Res.	ヘパリンは、炎症反応に作用しケラチノサイトによるメラノソーム取り込みを阻害する。 Makino-Okamura C, Niki Y, Takeuchi S, Nishigori C, Declercq L, Yaroch DB, Saito N. (2014);27(6): 1063-74.
21.Melanosomes are transferred from melanocytes to keratinocytes through the processes of packaging, release, uptake, and dispersion.（査読付）	共	2012年4月	Journal of Investigative Dermatol	メラノソームは色素細胞から小胞体にパッキングされ放出されケラチノサイトに取り込まれる。 Ando H, Niki Y, Ito M, Akiyama K, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2012);132 (4):1222-9.
22.1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylpheny) propane inhibits melanin synthesis by dual mechanisms. （査読付）	共	2011年2月	J Dermatol Sci.	1-(2,4-Dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylpheny) propaneは、チロシナーゼ活性阻害、チロシナーゼタンパク質分解促進を介してメラニン生成を抑制する。 Niki Y, Yoshida M, Ando H, Wakamatsu K, Ito S, Harada N, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. (2011);63(2):115-21.
23.Involvement of pigment globlues containing multiple melanosomes in the transfer of melanosomes from melanocytes to keratinocytes. （査読付）	共	2011年1月	Cell Logist.	メラノソームをパックングしたpigment globluesが、メラノサイトからケラチノサイトへのメラノソーム移送に関与する。 Ando H, Niki Y, Yoshida Y, Ito M, Akiyama K, Jin-Hwa K, Tae-Jin Y, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M (2011); 1(1):12-20
24.Modification of skin discoloration by a topical treatment containing an extract of Dianella ensifolia : a potent antioxidant. （査読付）	共	2010年9月	J Cosmet Dermatol.	キキョウランから抽出物は抗酸化作用を持ち、皮膚恒常性維持への有効性を有する。 Mammone T, Muizzuddin N, Declercq L, Clio D, Corstjens H, Sente I, Van Rillaer K, Matsui M, Niki Y, Ichihashi M, Giacomoni PU, Yarosh D. (2010) 9(2):89-95.
25.Keratinocytes in culture accumulate phagocytosed melanosomes in the perinuclear area. （査読付）	共	2010年2月	Pigment Cell Melanoma Res.	培養ケラチノサイトに取り込まれたメラノソームは細胞核周辺に集積する。 Ando H, Niki Y, Yoshida M, Ito M, Akiyama K, Kim J. H, Yoon T. J, Lee J. H, Matsui M. S, Ichihashi M. (2010) 23:129-33.

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
3 学術論文				
26.Photoaging of the skin （査読付）	共	2009年9月	Japanese Society of Anti-Aging Medicine	皮膚光老化に関する報告 Ichihashi M, Ando H, Yoshida M, Niki Y, Matsui M, （2009）：6（6）:46-59
27.Reexamination of microanalytical methods for melanin assay（査読付）	共	2008年4月	Pigment Cell Melanoma Res.	生体組織内メラニン色素の微量定量法について Wakamatsu, K, Ito, S, Niki, Y, Hirobe, T, Brilliant, M. (2008) 21(2):251-252.
28.Study on the compounds containing 19F and 10B atoms in a single molecule for the application to MRI and BNCT.（査読付）	共	2006年10月	Bioorg Med Chem.	19Fと10Bを含むMRIイメージング及びホウ素中性子捕捉療法用分子の開発 Hattori Y, Asano T, Niki Y, Kondoh H, Kirihata M, Yamaguchi Y, Wakamiya T. (2006) 14(10):3258-62.
29.Improvement of the tumor-suppressive effect of boron neutron capture therapy for amelanotic melanoma by intratumoral injection of the tyrosinase gene.（査読付）	共	2006年7月	Cancer Research	アメラノティックメラノーマへのチロシナーゼ遺伝子導入はホウ素中性子捕捉療法の効果を増強させる。 Morita. N, Hiratsuka. J, Kondoh H. Uno M, Asano T, Niki Y, Sakurai Y, Ono K, Harada. T, Imajo Y. (2006); 66(7):3747-53
30.Intracellular composition of fatty acid affects the processing and function of tyrosinase through the ubiquitin-proteasome pathway.（査読付）	共	2006年2月	Biochem J.	細胞内脂質組成がユビキチンプロテアソーム経路を介してチロシナーゼの分解に関与する。 Ando H, Wen ZM, Kim HY, Valencia JC, Costin GE, Watabe H, Yasumoto K, Niki Y, Kondoh H, Ichihashi M, Hearing VJ. (2006); 394: 43-50
その他				
１．学会ゲストスピーカー				
1.チロシナーゼの翻訳後修飾とメラニン生成の制御	単	2022年11月13日	第31回日本色素細胞学会（11/12-13 東京）	チロシナーゼの翻訳後修飾とメラニン生成の制御について講演を行った。
2.Regulation of Melanin Synthesis by S-Palmitoylation of Tyrosinase	共	2018年11月	第28回日本色素細胞学会	溝口昌子賞受賞講演 チロシナーゼの翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）によるメラニン生成の調整機構について 仁木洋子 2018年10月14日、神戸、英語講演
3.日本の医薬部外品研究トレンド～美白剤、しわを改善する化粧品～	単	2018年5月	The 4th international Functional Cosmetics R&D Innovation Forum	日本の医薬部外品（美白剤、シワ改善剤）の開発について、約100名の韓国化粧品メーカー研究者及び大学の化粧品研究者に講演した。 仁木洋子 2018年5月18日、成均館大学（韓国ソウル）
4.Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞講演 パルミトイル化によるメラニン生成の調整について Niki Y 2013年5月15日、 The San Gallicano Dermatological institute、ローマ、英語口演
２．学会発表				

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
1.γオリザノールを封入したUVB応答型リポソームの開発	共	2025年3月29日	日本薬学会第145年会	菊山愛花、吉田麗子、仁木洋子、宇田亮子 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
2.ローズマリーエキスのアンチポリューション効果	共	2025年3月28日	日本薬学会第145年会	吉田麗子、大川瑞貴、片岡姫菜、位上健太郎、伊藤久富、仁木洋子 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
3.LC/ESI-MS/MSによるベンザルコニウム塩化物の定量法の開発とヒト表皮三次元培養モデルを用いた浸透性の評価	共	2025年3月27日	日本薬学会第145年会	松本孝彬、中尾彩香、本谷真奈、仁木洋子、佐藤博文 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
4.ブリーチ処理による毛髪カルボニル化に対するアミノ酸の抑制効果	共	2025年3月27日	日本薬学会第145年会	仮屋瑠花、吉田麗子、仁木洋子 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
5.角層カタラーゼ活性に対する界面活性剤および保湿剤の影響について	共	2025年3月27日	日本薬学会第145年会	神谷日菜、吉田麗子、仁木洋子 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
6.新規3次元培養皮膚モデルを用いた皮膚浸透の検討	共	2025年3月27日	日本薬学会第145年会	中島香音、吉田麗子 、七里博章 、李 亜玲 、手塚克成、仁木洋子 2025年3月26～29日　福岡 ポスター発表
7.UVB応答型リポソームへの抗酸化剤の封入		2024年11月20日	第2回日本化粧品技術者会学術大会	菊山愛花、仁木洋子、勝間田祐貴、宇田亮子 2024年11月18-20日　神戸 ポスター発表
8.3 次元培養皮膚モデルを用いた皮膚透過性評価の検討	共	2024年11月19日	第2回日本化粧品技術者会学術大会	中島香音、吉田麗子 、七里博章 、李 亜玲 、手塚克成 、仁木洋子 2024年11月18-20日　神戸 ポスター発表
9.経皮送達性を持つUVB応答型リポソームの開発	共	2024年11月18日	第2回日本化粧品技術者会学術大会	木下瞳月、仁木洋子、勝間田祐貴、宇田亮子 2024年11月18-20日　神戸 口頭発表
10.パーマ処理による毛髪のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの予防効果	共	2024年10月6日	第74回薬学会関西支部会	松田梨沙、吉田麗子、小寺啓貴、勝間田祐貴 、仁木洋子 2024年10月5日　武庫川女子大学 ポスター発表
11.3 次元培養皮膚モデルを用いた皮膚透過性評価の検討	共	2024年10月5日	第74回薬学会関西支部会	中島香音、吉田麗子 、七里博章 、李 亜玲 、手塚克成 、仁木洋子 2024年10月5日　武庫川女子大学 ポスター発表
12.角層カタラーゼ活性の年間変動と紫外線照射による直接的な影響について	共	2024年10月5日	第74回薬学会関西支部会	神谷日菜、來山莉奈、花岡 瞳、宮崎彩寧、吉田麗子、仁木洋子 2024年10月5日　武庫川女子大学 ポスター発表
13.毛髪酸化ダメージのカルボニル化に対するアミノ酸の抑制効果	共	2024年10月5日	第74回薬学会関西支部会	仮屋瑠花、吉田麗子、仁木洋子 2024年10月5日　武庫川女子大学 ポスター発表
14.レモンエゴマ精油の抗酸化作用と酸化ストレスに対する表皮細胞内活性酸素種抑制効果	共	2024年10月5日	第74回薬学会関西支部会	大川瑞貴、○片岡姫菜、大下真衣、吉田麗子、仁木洋子 2024年10月5日　武庫川女子大学 ポスター発表
15.新規3次元培養皮膚モデルを用いた皮膚浸透の検討	共	2024年9月7日	第13回細胞再生医療研究会学術集会	若手研究者優秀賞受賞 中島 香音、吉田 麗子、七里 博章、李 亜玲、手塚 克成、仁木 洋子

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
16.3次元皮膚構築モデルに浸透した光イオン化マラカイトグリーン含有リポソームの飛行時間型二 次イオン質量分析法による検出	共	2024年5月18日	第84回分析化学討論会	2024年9月7日　甲南大学　ポスター発表 宇田亮子、仁木洋子 2024年5月18－19日　京都工芸繊維大学 ポスター発表
17.消毒成分塩化ベンザルコニウムに対するポリオキシエチレンラノリンによる皮膚刺激緩和効果	共	2024年3月29日	日本薬学会第144年会	中尾彩香、江副紅音、仁木洋子 2024年3月28～31日　パシフィコ横浜 ポスター発表
18.ブリーチによる毛髪タンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制効果	共	2023年12月6日	日本化粧品技術者会第1回学術大会	前薗詩織、吉田萌生、小寺啓貴、勝間田祐貴、仁木洋子 ブリーチによる毛髪酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制作用を示した。 2023年12月5－7日 埼玉　ポスター発表
19.SIRC－STE法による精油の眼刺激性試験 ～細胞生存率と抗酸化能の相関について～	共	2023年10月14日	第73回　日本薬学会関西支部総会・大会	古市英里佳、久保瑞季、仁木洋子 精油23種類の眼刺激性を動物実験代替法のSIRC-STE法を用いて2種類の細胞生存率決定法で評価し、被験物質の抗酸化作用との関連を検討した。 2023年10月14日　神戸　ポスター発表
20.リゾフォスファチジン酸アルミニウム塩は表皮バリア機能改善効果を維持しつつTRPV1誘発性感覚刺激を抑制する	共	2023年9月7日	第61回日本油化学会年会	戸田菜月、小林瑞貴、小野内裕美、栗原浩司、小寺啓貴、清水透、仁木洋子、大橋幸浩 2023年9月7-9日、高知、ポスター発表
21.熱処理による毛髪のエイジングとγ-ドコサラクトンによる抑制効果	共	2023年3月26日	日本薬学会143年会	佐藤帆ノ香、吉田萌生、前薗詩織、小寺啓貴、勝間田祐貴、仁木洋子熱による毛髪酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制作用を示した。 2023年3月25－28日　札幌　ポスター発表
22.ブリーチ処理による毛髪タンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制効果	共	2023年3月26日	日本薬学会143年会	前薗詩織、吉田萌生、佐藤帆ノ香、小寺啓貴、勝間田祐貴、仁木洋子 ブリーチによる毛髪酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制作用を示した。 2023年3月25－28日　札幌　ポスター発表
23.熱処理による毛髪タンパク質のカルボニル化に対するγ－ドコサラクトンの抑制効果	共	2022年10月8日	第72回日本薬学会関西支部会	佐藤帆ノ香、吉田萌生、小寺啓貴、勝間田祐貴、仁木洋子 2022年10月8日　大阪　ポスター発表
24.チロシナーゼのパルミトイル化修飾によるメラニン合成制御機構	共	2022年7月1日	第141回日本薬理学会近畿部会	仁木洋子　○足立直子、深田正紀、深田優子、錦織千佳子、齋藤尚亮、上山健彦 2022年7月1日　オンライン開催（口頭発表）
25.角層アミノペプチダーゼ活性を阻害する外部要因	共	2022年3月28日	日本薬学会第142年会	川崎朝未、山本明日香、吉田萌生、仁木洋子、平尾哲二 2022年3月25-28日　名古屋（オンライン　ポスター発表）
26.紫外線照射による毛髪タンパク質のカルボニル化促進とγ-ドコサラクトンによる抑制効果	共	2022年3月26日	日本薬学会第142年会	前薗詩織 、吉田萌生 、小寺啓貴 、勝間田祐貴 、仁木洋子 2022年3月25-28日　名古屋（オンライン　ポスター発表）
27.Phosphatidylinositol-rich liposomes prevent oxidative stress induced by	共	2021年12月3日	IFSCC2021　カンクーン中間大会 国内報告会	Niki Y, Onouchi H, Kotera H, Ohashi Y 2021年12月3日　オンライン　ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
diesel particulate matter through suppression of activation of aryl hydrocarbon receptor (AhR)				
28.Phosphatidylinositol-rich liposomes prevent oxidative stress induced by diesel particulate matter through suppression of activation of aryl hydrocarbon receptor (AhR)	共	2021年10月18日	The 32st IFSCC conference 2021	Niki Y, Onouchi H, Kotera H, Ohashi Y 2021年10月18-28日　メキシコ（オンライン） ポスター発表
29.カミソリ剃毛の皮膚バリア機能に 及ぼす影響	共	2021年6月25日	第46回日本香粧品学会	萩原穂香、木部龍太、原和暢、塩谷俊介、仁木洋子、平尾哲二 2021年6月25-26日（オンライン）
30.The suppressive effects of phosphatidylinositol-rich liposomes on unknown influence of Blue Lights on deterioration of skin moisturizing function -Focus on oxidative damage of mitochondria-	共	2020年10月21日	The 31st IFSCC Congress 2020	Niki Y, Endo K, Onouchi H, Iwasaki K, Kotera H, Ohashi Y, Masaki H 2020年10月21日　オンライン（ポスター）発表
31.Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H 2019年11月27日、東京 ポスター発表
32.Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年11月27日	IFSCC2019国内報告会	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 2019年11月27日、東京 ポスター発表
33.トラネキサム酸は光老化モデル線維芽細胞の真皮マトリックス再生を促進する	共	2019年10月	日本香粧品学会	遠藤香凜、仁木洋子、大橋幸浩、正木仁 2019年6月28-29日、東京 口頭発表
34.Phosphatidylinositol-rich liposome as a novel candidate to prevent onset of	共	2019年9月30日	25th IFSCC 2019 Conference	Endo K, Niki Y, Kotera T, Ohashi Y, Masaki H, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
solar lentigo initiated by UV light, Blue-light, or Near-infrared light				
35.Phosphatidylinositol-rich Liposomes Enhance Hyaluronic Acid Synthesis in the Keratinocytes Through EGFR Signaling and Increase Skin Moisture	共	2019年9月30日	25th IFSCC 2019 Conference	Niki Y, Kotera T, Endo K, Iwasaki K, Ohashi Y, 2019年9月30日-10月2日、ミラノ ポスター発表
36.Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2019年10月21日、東京 ポスター発表
37.Efficacy and Mechanisms of action of the Skin Penetration Enhancer Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA) on Epidermal Penetration Rate of Water-Soluble Ingredients.	共	2018年12月	IFSCC2018国内報告会	Niki Y, Yamakawa S, Kikuchi R, Koyama M, Ohashi Y, Masaki H, 2018年12月21日、東京 口頭発表
38.Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン ポスター発表
39.Tranexamic acid restores reconstruction of the dermal matrix through the activation of SIRT-1	共	2018年9月	30th IFSCC CONGRESS 2018	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年9月18-21日、ミュンヘン ポスター発表
40.UVA 照射により誘導した老化線維芽細胞に注目したトラネキサム酸の新規色素斑形成抑制作用	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Endo K, Niki Y, Ohashi Y, Masaki H, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表
41.Bis-ethoxydiglycol cyclohexane 1,4-dicarboxylate (CH-CA)の皮膚及び毛髪への水溶性有効成分の浸透促進作用と有効性向上について	共	2018年8月	第36回日本美容皮膚科学会総会・学術大会	Niki Y, katsumata Y, Yamakawa S, Koyama M, Ohashi Y, 2018年8月4-5日、東京 口頭発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
42.Palmitoylation of tyrosinase regulates melanin synthesis through ubiquitination.	共	2014年9月	22th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2014年9月4-7日、シンガポール 口頭発表
43.メラニン合成制御薬のターゲットとしてのチロシナーゼのS-パルミトイル化現象	共	2014年6月20日	第125回薬理学会近畿部会	齋藤尚亮，仁木洋子，深田正紀，深田優子，奥慎一郎，岡村千絵子，竹内聖二，若松一雅，伊藤祥輔，錦織千佳子，Lieve Declercq， Daniel Yarosh 岡山コンベンションセンター，口頭発表
44.チロシナーゼのS-パルミトイル化はその分解を制御しメラニン生成を調整する	共	2013年11月	第25回日本色素細胞学会	仁木洋子，深田正紀，深田優子，奥慎一郎，岡村千絵子，竹内聖二，若松一雅，伊藤祥輔，錦織千佳子，Lieve Declercq，Daniel Yarosh，齋藤尚亮 2013年11月16-17日、大阪大学 口頭発表
45.Heparin inhibits melanosome uptake and inflammatory response coupled with phagocytosis through blocking PI3k/akt MEK/ERK signaling pathways in human epidermal keratinocytes.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Okamura C, Takeuchi S, Niki Y, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2013年5月8-11日、エジンバラ ポスター発表
46.3次元皮膚培養細胞を使った皮膚糖化モデルの検討	共	2013年5月	第12回日本抗加齢医学会総会	優秀演題賞受賞 一條遼，八木雅之，仁木洋子，市橋正光，米井嘉一 2012年6月22-24日、横浜 ポスター発表
47.Regulation of melanin synthesis by S-palmitoylation of tyrosinase.	共	2013年5月	International Investigative Dermatology	Intersociety Young Fellow Collegiality Awards受賞 Niki Y, Fukata M, Fukata Y, Oku S, Okamura C, Takeuchi S, Wakamatsu K, Ito S, Nishigori C, Declercq L, Yarosh DB, and Saito N. 2013年5月8-11日、エジンバラ ポスター発表
48.Slaty mutation inverses the ratio of DHI and DHICA content of eumelanin in both mouse melanocytes and hair.	共	2012年9月	21th International Pigment Cell Conference	Niki Y, Hirobe T, Wakamatsu K, Ando H, Yoshida M, Ichihashi M and Ito S 2011年9月7-12日、ボルドー ポスター発表
49.The inhibition of PAR-2 downstrem signaling can prevent keratinocyte	共	2012年5月	72th Society for Investigative Dermatology	Okamura C, Takeuchi S, Niki Y, Decleaq L, Yarosh DB, Nishigori C, Saito N 2012年5月9-12日、ローリー、 ポスター発表
50.Live imaging analysis of melanosome transfer using lipophilic tracer.	共	2012年5月	72th Society for Investigative Dermatology	Takeuchi S, Okamura C, Niki Y, Nishigori C, Decleaq L, Yarosh DB, Saito N 2012年5月9-12日、ローリー、 ポスター発表
51.Melanocyte dendrites penetrate through a microporous membrane filter and generate large pigment globules	共	2011年9月	21th International Pigment Cell Conference	Ando H, Niki Y, Ito M, Akiyama K, Matsui MS, Yarosh DB and Ichihashi M 2011年9月7-12、ボルドー、ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
containing multiple melanosomes which transfer to keratinocytes below				
52.Possible involvement of shedding vesicle system in the melanosome transfer pathway	共	2011年5月	71th Society for Investigative Dermatology	Ando H, Niki Y, Ito M, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. 2011年5月4-7日、フェニックス、ポスター発表
53.Omeprazole (proton pump inhibitor) inhibits melanin synthesis accompanied by a decreased pH in the acidic cell compartment.	共	2011年5月	71th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2011年5月4-7日、フェニックス ポスター発表
54.UV連続照射により早期老化したヒト皮膚線維芽細胞におけるPGC1-αとSirtuin-1の減少	共	2010年12月	第10回日本抗加齢医学会総会	吉田雅紀，仁木洋子，安藤秀哉，Mary S. Matsui，Daniel B. Yarosh，市橋　正光 2010年6月　11-13日、京都国際会議場，口頭発表
55.メラノソームトランスファー機構におけるケラチノサイト内メラノソーム包含膜形の重要性	共	2010年11月	第23回日本色素細胞学会学術大会	安藤秀哉，　仁木洋子，吉田雅紀，Mary S. Matsui，Daniel B. Yarosh，市橋　正光 2010年11月27－28日、東京慈恵会医科大学，口頭発表
56.新規メラノソームトランスファーメカニズムの解明：多数のメラノソームを含有した膜小胞の発見	共	2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会	安藤秀哉，　仁木洋子，吉田雅紀，Mary S. Matsui，Daniel B. Yarosh，市橋　正光 2010年6月11-13日、京都国際会議場，口頭発表
57.1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl) propaneは，複合的な機構でメラニン生成を抑制し，美白効果を発揮する	共	2010年6月	第10回日本抗加齢医学会総会	仁木洋子，吉田雅紀，安藤秀哉，Mary S. Matsui，Daniel B. Yarosh，市橋　正光 2010年6月11-13日、京都 ポスター発表
58.UCP2 is associated with differentiation in human epidermal keratinocytes via regulation of ATP production.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Yoshida M, Niki Y, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2010年5月5-8日、アトランタ、ポスター発表
59.Melanocyte dendrite-derived globules secreted into the culture medium are possible transporters of melanosomes in the melanosome	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Ando H, Niki Y, Yoshida M, Ito M, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M 2010年5月5-8日、アトランタ、ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
transfer mechanism.				
60. 1-(2,4-dihydroxyphenyl)-3-(2,4-dimethoxy-3-methylphenyl) propane inhibits melanin synthesis by multiple mechanisms.	共	2010年5月	70th Society for Investigative Dermatology	Niki Y, Yoshida M, Ando H, Matsui MS, Yarosh DB, Ichihashi M. 2010年5月5-8日、アトランタ ポスター発表
61. A new proposal for the evaluation method of melanosome transfer in respect to melanosome uptake by keratinocyte phagocytosis.		2009年12月	第22回日本色素細胞学会学術大会	安藤秀哉 仁木洋子，吉田雅紀，Matsui MS，市橋正光 2009年12月5-6日、福岡、ポスター発表
62. UCP2 is associated with differentiation in human epidermal keratinocytes.	共	2009年12月	第34回日本研究皮膚科学会	吉田雅紀，仁木洋子，安藤秀哉，Matsui MS，市橋正光 2009年12月4-6日、福岡、口頭発表
63. Reexamination of microanalytical methods for melanin assay	共	2008年5月	20th International Pigment Cell Conference and 5th International Melanoma Research Congress	Wakamatsu K, Ito S, Niki Y, Hirobe T and Brilliants M 2008年5月7-12日、札幌
64. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2008年5月	20th International Pigment Cell Conference and 5th International Melanoma Research Congress	Niki Y, Wakamatsu K, Ando H, Hirobe T, Ichihashi M and Ito S. 2008年5月7-12日、札幌 ポスター発表
65. トリフルオロメチル基を有するp-ボロノフェニルアラニンの合成とホウ素キャリアーおよびMRIプローブとしての評価	共	2006年3月28日	日本化学会第86春季年会	服部能英，仁木洋子，近藤浩文，森田倫正，浅野智之，切畑光統，山本仁，山口仁宏，若宮建昭 2006年3月27～３０日、日本大学 口頭発表
66. Comparison of cultured Epidermal melanocytes from wild type mouse and its congenic, Slaty mutant mouse.	共	2005年12月	第19回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子，若松一雅，近藤浩文，広部知久，伊藤祥輔 2005年12月3-4日、東京 口頭発表
67. Intracellular fatty acids affect the processing and function of	共	2005年9月	19th International Pigment Cell Conference	Ando H, Wen ZM, Kim HY, Valencia JC, Costin GE, Watabe H, Yasumoto K, Niki Y, Kondoh H, Ichihashi M, Hearing VJ 2005年９月18-22、レストン、ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
２．学会発表				
tyrosinase through the ubiquitin-proteasome pathway				
68.The incorporation mechanism of p-Boronophenylalanin ol (BPA-ol) into tumor cells - Relevance with an amino acid transportation system-.	共	2005年9月	12th International Conference on Boron Chemistry	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M. 2005年9月11-15日、仙台 ポスター発表
69.ガンの診断と治療を目指したフッ素およびホウ素含有アミノ酸の合成と応用に関する研究	共	2005年3月	日本農芸化学会大会2005年度	服部能英、山口仁宏、山本仁、浅野智弘、切畑光統、高垣正雄、仁木洋子、近藤浩文、若宮建昭 2005年3月28～30日　札幌 口頭発表
70.Role of Glycosylation in Pheomelanogenesis : Effect of Glucosamine on Enzymic/non-enzymic Pathway.	共	2004年11月	第17回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子，近藤浩文，若松一雅，田辺不二美，伊藤祥輔，三嶋豊 2004年11月29-30日、東京 口頭発表
71.The Incorporation Mechanism of p-Boronophenylalanin ol (BPA-ol) into Tumor Cells.	共	2004年10月	11th World Congress on Neutron Capture Therapy	Niki Y, Kondoh H, Asano T and Kirihata M 2004年10月11-15日、ボストン ポスター発表
72.Future Analyses on The Actions of Boronophenyalanine (BPA) to The Dynamics of Melanin Monomers/ Polymers Synthesis in Pigment Cells and Their Excretion into Culture Medium.	共	2003年12月	第16回日本色素細胞学会学術大会	仁木洋子，近藤浩文，若松一雅，伊藤祥輔，三嶋豊 2003年12月7-8日、名古屋 口頭発表
73.p-boronophenylalanin ol(BPA-ol)の癌細胞内への取り込み機構―アミノ酸輸送系との関連性―	共	2003年8月	第１回日本中性子捕捉療法研究会	仁木洋子，近藤浩文，浅野智之，切畑光統 2003年8月30-31日、京都 口頭発表
74.癌中性子捕捉療法のホウ素キャリアー,p-boronophenylalanin olの癌細胞内への取り込み機構-アミノ酸輸送系との関連性-	共	2003年3月25日	日本農芸化学会大会2003年度	近藤浩文、仁木洋子、上原幸樹 、浅野智之、切畑光統 2003年3月31日～4月3日、パシフィコ横浜 口頭発表
75.Interaction Between p-BPA and precursor of Melanin Prepared from Greene’s Hamster Melanoma.	共	2000年10月	9th World Congress on Neutron Capture Therapy	優秀演題賞受賞 Takase M, Yoshino K, Kamijo M, Niki Y, Kondoh H, Hiratsuka J and Mishima U. 2000年10月2-6日、大阪 ポスター発表

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
３．総説				
４．芸術（建築模型等含む）・スポーツ分野の業績				
５．報告発表・翻訳・編集・座談会・討論・発表等				
1.躍動する女性研究者　―この事業の支援を受けて―	単	2025年2月26日	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）総括シンポジウム（奈良女子大学）	ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）で採択された2件の助成金で実施した研究について報告を行った。
2.ブリーチ処理による毛髪タンパク質のカルボニル化に対するγ-ドコサラクトンの抑制効果	共	2024年3月15日	バイオサイエンス研究所2023年度研究成果発表会	ブリーチによる毛髪の酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化をアミノ基を介する毛髪結合性ヘアケア成分が有意に抑制することを示した。
3.チロシナーゼのパルミトイル化によるメラニン生成制御	共	2023年3月16日	バイオサイエンス研究所 2022年度研究成果発表会	メラニン生成鍵酵素であるチロシナーゼの翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）によるメラニン生成制御の可能性を示した。
4.酸化ダメージによる毛髪タンパク質のカルボニル化と 化粧品素材による抑制効果	共	2022年3月3日	バイオサイエンス研究所　2021年度研究成果発表会	紫外線B波による毛髪の酸化ダメージであるタンパク質のカルボニル化をアミノ基を介する毛髪結合性ヘアケア成分が有意に抑制することを示した。
5.熱及び紫外線による毛髪のカルボニル化	共	2021年3月6日	バイオサイエンス研究所　2020年度研究成果発表会	毛髪にダメージを与える熱や紫外線による毛髪酸化ストレスをカルボニル化タンパク質の検出から解析を行った。
６．研究費の取得状況				
1.香粧品原料の有用性評価に関する研究	単	2024年10月～現在	化学会社B社	香粧品原料の皮膚有用性評価に関する研究
2.抗炎症剤内包紫外光性リポソームの経皮キャリア	共	2024年8月	武庫川女子大学架橋横断的重点共同研究・グローバル共同研究支援 100千円	紫外光応答リポソームについて、水溶性物質の経皮到達デバイスとしての可能性を評価するために、培養細胞や3次元ヒト皮膚モデルを用いる評価を行う。
3.ナノセルロース集合体を基材とした新規徐放性保湿フェイスシートの開発	共	2024年6月～2025年3月	武庫川女子大学薬学部 学部長裁量経費	ナノセルロース集合体を基材とした新規徐放性保湿フェイスシートの開発
4.植物由来素材の化粧品有用性に関する研究	単	2023年4月1日～2025年3月	共同研究費 化粧品会社A	植物由来素材の化粧品有用性探索に関する研究
5.着衣によるアレルギー症状の誘発機構の解明とかゆみ度の定量化	共	2023年4月1日~現在	科研費基盤研究(B) 分担	化学修飾布の皮膚刺激性の評価
6.新規ヒト3次元皮膚モデルを用いる薬剤経皮浸透評価	共	2023年4月～現在	共同研究費 化粧品OEM会社A	新規ヒト再構築皮膚モデルの特性を明らかとする目的で、溶解性の異なる種々薬剤の経皮浸透について評価を行っている。
7.紫外光応答性経皮リポソーム及びその内包物の皮膚内局在イメージング解析	単	2023年1月1日~	一般財団法人材料科学技術振興財団　令和4年度研究助成　1,000千円	紫外光応答性リポソームの経皮デバイスとしての可能性評価研究
8.紫外光応答性経皮リポソームの開発	共	2022年10月2024年3月	科学技術振興財団A-STEPトライアウト 1,495千円	紫外光応答リポソームの経皮デバイスとしての安全性、有効性評価を行った。
9.身体用製品の皮膚への影響評価	単	2022年4月1日	共同研究費 株式会社アルボース	身体用洗浄剤の皮膚への影響について皮膚細胞などを用いて分子化学的解析を行っている。

研究業績等に関する事項				
著書、学術論文等の名称	単著・共著書別	発行又は発表の年月	発行所、発表雑誌等又は学会等の名称	概要
６．研究費の取得状況				
10.毛髪用美容機器の性能評価に関する研究	単	2021年9月1日～	奨学寄附金 美容機器メーカー	毛髪用美容機器の性能評価を行った。
11.丹波地方に自生する樹木由来素材のアンチエイジング化粧品応用に関する研究	単	2021年9月	ダイバーシティ推進センター女性研究者賞 200千円	産業活用が進んでいない丹波地方に自生する樹木の熱水抽出物について、皮膚細胞への酸化ダメージ抑制効果を評価した。
12.皮膚適応素材の皮膚浸透に関する研究	単	2021年6月1日	共同研究費 化学会社A	皮膚適応素材の経皮浸透を再構築ヒト3次元皮膚モデルを用いて評価し、化学修飾基による経皮浸透挙動の違いを見出した。
13.医療器具処理剤の細胞毒性に関する研究	単	2021年4月1日～	共同研究費 株式会社アルボース	医療器具処理剤の皮膚細胞毒性を評価した。
14.紫外線応答型リポソームの膜融合性を用いた送達システムの開発	共	2021年4月	コーセーコスメトロジー研究助成	紫外光応答リポソームについて、水溶性物質の経皮到達デバイスとしての可能性を評価するために、培養細胞や3次元ヒト皮膚モデルを用いる評価を行う
15.生理活性脂質に関する研究	単	2020年10月1日～現在	共同研究費 日本精化株式会社	生理活性脂質のスキンケア、ヘアケア化粧品における機能性評価を行っている。
16.紫外光応答性マラカイトグリーン誘導体含有リポソームの表皮浸透性の検討	共	2020年9月	異分野交流会共同研究スタートアップ研究支援費 助成金額：３００千円 代表	紫外光応答リポソームの経皮到達デバイスとしての可能性を評価するために、3次元ヒト皮膚モデルを用いて表皮浸透性を評価した。
17.チロシナーゼのS-パルミトイル化によるメラニン生成制御について	単	2020年7月1日～2021年3月	共同利用研究課題助成金 神戸大学バイオシグナル研究センター	チロシナーゼのS-パルミトイル化によるメラニン生成制御について検討した。
18.化粧品分野の生理活性研究	単	2020年6月1日～	奨学寄附金 日本精化株式会社	生理活性脂質のスキンケア、ヘアケア化粧品における機能性評価
19.メラノソーム成熟におけるBACE2パルミトイル化の役割	単	2015年4月～2018年3月	科学研究費若手研究（B） 助成金額：３，５１０千円 代表	メラニン色素生成の場であるメラノソーム成熟において、メラノソーム構造タンパク質のPMEL17を切断する酵素であるBACE2の翻訳後脂質修飾（パルミトイル化）が果たす役割を検討した。

学会及び社会における活動等	
年月日	事項
1.2020年4月～	日本薬学会会員
2.2016年4月～2024年まで	日本動物実験代替法学会
3.2016年4月～	日本美容皮膚科学会
4.2015年4月～	日本化粧品技術者会
5.2015年4月～	日本香粧品学会　2021年から評議員
6.2008年4月～	日本研究皮膚科学会
7.2001年4月～	日本色素細胞学会　2025年から事務局長